

読売歌壇

亡き母のたんすの隅の前掛けは七十年前吾の縫いし物
 【評】母が亡くなって箆笥を整理していたら七十年前に母にプレゼントした手縫いの前掛けが出てきた。大事に大事に保存していたのだ。万感胸に迫る。泣ける話である。
 フギウギの笠置シヅ子の舞台見きわしたのとも若かった頃 岡山市 前原 和子
 【評】戦後間もないころのフギウギ、笠置シヅ子。現物を見た人はもう限られている。「わたしのもとも若かった頃」という平明で正直な表現がともよく効いている。
 絵ハガキに大きなバアバ足もとにちっちゃいジイジイ敬老の目くる 川越市 大貫 芳江
 【評】小さな孫にとってバアバはとも大きな存在。ジイジイはよほど影が薄い。子供の描く絵は正直。「足もとに」がおもしろい。
 期限切れし吾のパスポート捨てがたしガムランの音をなつかしむため 浜松市 藤田 亜耶
 読み方のわからぬ地名はからずも能登の地震にその名前知る 仙台市 佐々木 峯子
 「あしたからおかあさんと呼ぶよオカアちゃん」と言った子が今日六十三歳 加茂市 田代 旅子
 車窓からいつも見ていた吉野川土手に咲いている冬の菜の花 鳴門市 楠井 花乃
 春を告ぐ使者のごとくに病室へふわりと入りて来し紋繻蝶 四万十市 左山 遼
 きざらぎの光の中のボンカンよわれにも若い日ありしよ 仙台市 小野寺 寿子
 白鳥は風の匂ひをかきわけて計りあるらし北へ帰る日 足利市 熊田 敏夫

小池 光選

栗木 京子選

幼な児ら福よぶ声に負けぬほど「地しん来ないで」と豆強くまく 袋井市 荒野 学
 【評】節分に豆をまく子等。一月一日の能登半島地震のことが強く記憶に残っている。「福は内」と願うだけでなく地震に向けて声を発したところに実感がこもっている。
 亡き夫との思ひ出残る茶房でもレシの支払ひ自動となりぬ 所沢市 志村 記子
 【評】思ひ出の茶房。店の雰囲気や飲み物の味だけでなく、レシでのやりとりも印象深いものだった。だが今では、支払いは自動に移り変わる世相へのさびしさが伝わる。
 この雨の外へ出たいというぐらいうーバーイソは自転車をしや 伊丹市 稲本真由美
 【評】雨の日は配達依頼が多くて大忙しなのかもしれない。雨という圏内から脱出するよううに走る人。上旬に迫力がこもっている。
 出口なき相談ばかり受けをれば民生委員の吾は少し「うつ」 鴻巣市 渡辺 照夫
 ねんねこに蜜柑温めた母の背の思い出の故郷の道 兵庫県 若藤 成生
 朝を待ち深夜ラジオを聴いてゐた母に近づく四時すこしまへ 浜松市 松浦富美子
 灌水の切り替え待ちの10分を短歌詠みおろりピーマンハウスに 神栖市 山上ふみ子
 スマホを家に忘れた車内でふと思う我が人生の主は自分だと 東京都 青山 繁
 見下ろせば我が家は底のあの辺り河岸段丘の町に陽は溢る 美濃加茂市 高田都美子
 妹も少し老いたり洋食屋花屋本屋とそぞろ連れ立ち 安中市 田口 明子

俵 万智選

家中に枯れた葉っぱが落ちていて終着点で二歳はねむる 東山市 月出里ひな
 【評】外遊びで拾ってきた葉っぱだろう。ペンゼルとグレーテルのパン屑のようにたどつていけば、疲れ果てた二歳児がいる。終着点という表現が、時間と空間の流れを感じさせ、効果的だ。
 剥げかけたネイルに乗せるラムいつか終わるとしてもいまじゃなかった 朝霞市 桐島 あお
 【評】このラムのように、修復して取り繕って、もう少し終わりを先延ばしできればよかった。上の句と下の句の響きあいが絶妙だ。
 向かいには名もない川が流れてて川も私の名前を知らない 燕市 田巻由美子
 【評】自然との向き合い方が対等で親しみがあつて魅力的だ。下の句には、はつとさせられる。川の前には、私も名もなき存在なのである。あたらしい靴をおろせば雨になる滲んで届くあなたののがき 埼玉県 玖嶋さくら
 右のひとと左のひとと春服で三色団子みたいに座る 八王子市 吉村のぞみ
 誰もいぬ壁に向かって投げる詩のように自由な石ころが欲し 奈良県 魚 周
 少しづつ散歩のコース伸びてゆく春に近づく道のりのごと 鹿児島市 地原 陽子
 春風の坂をたやすく子は進むひだりみきへと自転車揺らし 静岡市 海瀬安紀子
 地下鉄を出れば休符のフェルマータみたいな夕陽 マスクをはずす 豊中市 葉村 直
 防犯のためのカメラが写しだす人間はみな怪しく見える 大垣市 弓矢 みゆ

黒瀬 珂瀾選

一輪の椿のいのち受け止める輪島漆器の内なるひかり 小野市 大野多恵子
 【評】しずかな漆の輝きの中に花の命を受け止める。伝統工芸の美が私たちの生活を癒してくる。直接の言及はないが、被災地能登への応援と読んだ。伝統は必ずよみがえる。あっぱれや「穿いています」の決めポーズ裸になれぬ社会が嗤う 加茂市 志田とみ子
 【評】今や国際的な人気を誇る、とにかく明るい安村さんのパンツ芸だろう。最初は僕もやや苦笑したが、一本通してやり続けることを力を教えられた。先入観の愚かさを思う。まっしろなお手紙を書くように切る正業は銀のはさみでもって 入間市 山本 純人
 【評】三代目林家正業師匠、僕もファンだった。あの紙切り芸はなるほど、お客と舞台を繋ぐ手紙だったのかと思うと、感慨が深い。クレソンを野遊びのごと吾が摘めば母は拵えた夕餉の一品 豊前市 中村 澄枝
 突然に逝きし息子の仏前に免許更新の知らせが届く 東金市 井口 知子
 小学校対抗綱引き児童らの風のような声援響く 薩摩川内市 末永 芳子
 整然と柩のごとく置かれをりテーブルの端に四つスマホ 奥州市 境 朝子
 言論も氷点下なるモスクワで反戦候補に署名する列 阪南市 岡本 文子
 赴任地で独り五十を迎えたる息子にケーキのスタンプ送る 河内長野市 宮守 富
 身のほどに生きたらうか九十年陽にかさす手に指紋なかりし 常総市 渡辺 守

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇次回は25日(月)に掲載 右の影絵ははかまいり